



取引先企業の決算書をAIで自動読み取りする(サービスの画面イメージ)

決算書転記AI外販

SMFL与信管理の知見活用

三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、自社開発した人工知能(AI)の外販に乗り出す。取引先企業の決算書を自社システムに自動転記する「決算書入力AI」を開発した。人手で1期当たり10~30分要する作業を約5分で終わらせる。与信管理業務の蓄積を生かした。国内リース市場の縮小が見込まれる中、デジタル技術でリースの付加価値を高めると同時に、技術を切り出して事業の新しい柱に育てる。

SMFLは決算書入力AIを、地方銀行をはじめとした金融機関や、協力会社との与信管理を必要とする建設会社などに提案している。同様のサービスは

転記ができる。認識した画像を構成するピクセルの濃淡などから、AIが帳票の種類や勘定科目を判別する。一般的な転記作業では、複数の決算期の帳票を人が読み込み、自社システムに入力する必要がある。貸借対照表(B/S)であっても会社ごとに書式や勘定科目名が異なることが多く、人による読み込みには一定の熟練度が求められる。

SMFLはデジタル技術に早くから注力し、AI関連の技術者を約10人擁する。AIは、デジタル関連に強かった旧GEキャピタル(現SMFL)の人材を中心に開発した。